

興味を持ってアメリカ合衆国を調べようとする子どもたちに

～小6・社会科・国際理解の分野で～

西尾市立西尾小学校
小島 克 視

1 子どもたちの様子

米国での私個人の経験から感じたことは「人が生きて暮らしている」と言うことであった。特に、私が生活する西尾市では外国人と頻繁に接するという機会がないのが普通であるため、このような当たり前の感想を持つことになったと思うが、意識の中で誤解があったと言わざるを得ない。

それは、通常、日本で得られる米国の情報は特別に何か起きたときの報道や映画など、ある場面が強調されていることがほとんどであるためであろう。子どもたちへの事前アンケート（6年3組40名）でも、彼らの意識は次のようであった。

【アメリカのイメージは？】約7割解答

- ・肯定的—広い、明るい、高層建築、世界の中心、自由など
- ・否定的—こわい（銃、戦争しそう、テロ）など

【アメリカ人のイメージは？】約5割解答

- ・外見的特徴（彫りが深い、背が高い）が多数。少数として元気、にぎやか、派手、肉食など

結果から、強調された印象があることと、解答数から、アメリカについてあまり知らないということが分かってきた。

このことから、次のような授業を考えた。

2 私の授業（以後「本時」）の構想

(1) 基本的な考え

より多くの写真や実物を使って、アメリカの実際の生活の様子を示す。

（私が得られた情報も、ほんの一部に過ぎないことを忘れないように。）

担任ではないクラスの単元の一部を担当するので、以後の担任の単元展開に支障の少ないよう、通常使用する「新しい社会6下（東京書籍発行）」に準拠する。

(2) 単元「世界の中の日本」のながれの中の本時の位置

